

10月の新着本

2023年

10月14日(土) 貸し出し開始

【一般図書】

ハンチバック 【芥川受賞作賞】	市川沙央	「本を読むたび背骨は曲がり肺を潰し喉に孔を穿ち歩いては頭をぶつけ、私の身体は生きるために壊れてきた。」 井沢釈華の背骨は、右肺を押し潰すかたちで極度に湾曲している。 両親が遺したグループホームの十畳の自室から釈華は、あらゆる言葉を送りだす――。
上海灯蛾	上田早夕里	934年上海。「魔都」と呼ばれるほど繁栄と悪徳を誇ったこの地に成功を夢見て渡ってきた日本人の青年・吾郷次郎。彼の許を謎めいた日本人女性が訪ねる。ユキエと名乗るその女が持ちこんだのは、熱河省産の極上の阿片と芥子の種。次郎は阿片の売買を通じて上海の裏社会を支配する青幫の知己を得て、上海の裏社会に深く踏み入っていく。栄光か。破滅か。夜に生きる男たちを描いた、上海ピカレスク。
極楽征夷大將軍 【直木賞受賞作】	垣根涼介	やる気なし、使命感なし、執着なし、なぜこんな人間が天下を獲ってしまったのか？ 混迷する時代に、尊氏のような意志を欠いた人間が、何度も失脚の窮地に立たされながらも権力の頂点へと登り詰められたのはなぜか？ 幕府の祖でありながら、謎に包まれた初代將軍・足利尊氏の秘密を解き明かす歴史群像劇。
目の見えない白鳥さんとアートを見にいく 【読者希望】	川内有緒	「目の見えない人とアートを見る？」タイトルへの素朴な疑問は、驚きとともに解消されます。白鳥建二さんと現代アートや仏像を鑑賞すると、現れるのはこれまで見えていなかった世界。軽やかで明るい筆致の文章で、美術館巡りの追体験を楽しみながら、社会を考え、人間を考え、自分自身を見つめ直すことができる、まったく新しいノンフィクション。
失踪願望。コロナふらふら格闘編 【読者希望】	椎名誠	新型コロナ感染後、生死をさまよい退院するも、しつこい後遺症に悩まされる日々。旅には出られず、友と生ビールは遠く、自らと向き合えば今までと何かが違う――。 若き頃から抱える“失踪への衝動”を携えてシーナが放つ、パンデミック下の1年の記録。
香港警察東京分室	月村了衛	テロリストを追え！ 圧巻の国際警察小説。アクションあり、頭脳戦あり、個性豊かなキャラクターが躍動する警察群像エンタテイメント！アジアを舞台に、今、現実起こりつつあることさえ呑み込み、リアルとフィクションのあわいに生み出された珠玉の物語。
この夏の星を見る	辻村深月	コロナ禍による休校や緊急事態宣言、これまで誰も経験したことのない事態の中で大人たち以上に複雑な思いを抱える中高生たち。しかしコロナ禍ならではの出会いもあった。リモート会議を駆使して、全国で繋がっていく天文部の生徒たち。スターキャッチコンテストの次に彼らが狙うのは――。 哀しさ、優しさ、あたたかさ。人間の感情のすべてがここにある。
木挽町のあだ討ち 【直木賞受賞作】	永井紗耶子	ある雪の降る夜に芝居小屋のすぐそばで、美しい若衆・菊之助による仇討ちがみごとに成し遂げられた。父親を殺めた下男を斬り、その血まみれの首を高くかかげた快拳はたくさんの人々から賞賛された。二年の後、菊之助の縁者だというひとりの侍が仇討ちの顛末を知りたいと、芝居小屋を訪れるが。
若葉荘の暮らし 【読者希望】	畑野智美	感染症の影響を受け、望月ミチルのアルバイト先の飲食店の売上が激減。バイト代が減ってしまったミチルは家賃の安い家に移ることを余儀なくされる。そんな彼女に友人が紹介してくれたのが、40歳以上独身女性限定のシェアハウス「若葉荘」だった。不安を抱えながら若葉荘の門を叩いたミチルだったが、温かく迎えてくれた管理人・トキ子さんに出会い、ここに住むことを決める。
魔女と過ごした七日間	東野圭吾	その夏、信じられないことばかり起きた。「ラプラスの魔女」シリーズ！ AIによる監視システムが強化された日本。指名手配犯捜しのスペシャリストだった元刑事が殺された。 「あたしなりに推理する。その気があるなら、ついてきて」不思議な女性・円華に導かれ、父を亡くした少年の冒険が始まる。
空にピース 【読者希望】	藤岡陽子	公立小学校の教師になって五年目のひかりは、都内の赴任先で出会った人々に衝撃を受けていた。日本語が話せないベトナム国籍のグエン・ティ・ロン、授業中に教室を出て行く今田真亜紅、不登校気味で給食だけ食べに来る佐内大河、クラス分けに抗議をしにくる児童の母親…。

<p>祖母姫、ロンドンへ行く！</p> <p>【読者希望】</p>	<p>榎野道流</p>	<p>祖母と孫娘の、笑って泣ける英国珍道中!! 頑固で優雅な祖母姫の名言続出! 底抜けにおもしろく、やがてホロリとする——著者がまだ「コムスメ」だった頃の、「自己肯定感」にまつわる極上エッセイ!!</p>
<p>ぼんぼん彩句</p>	<p>宮部みゆき</p>	<p>俳句と小説の新しい出会い。17音の奥に潜む繊細で彩り豊かな12の物語。 宮部みゆきが深い洞察力と鑑賞力で12の俳句から紡ぎだした玉手箱。社会派からホラー、SFに至るまで、あらゆるジャンルに足跡を残してきた宮部文学の新たなる挑戦!</p>
<p>休館日の彼女たち</p>	<p>八木詠美</p>	<p>算数で「平行」を習ったときから、ひとには見えない黄色いレインコートに身をつつむことになったホラウチリカ。ある日、大学の恩師から紹介された仕事は古代ローマの女神像のおしゃべり相手だった。誰もがコミュニケーション不全を抱える世界で、有機物と無機物の境界すら越えて、わたしとヴィーナスは手に手を取り合い駆け出していく。新しい関係性の扉をひらく無敵のシスターフッド小説!</p>
<p>ものがわかるということ</p>	<p>養老孟司</p>	<p>ものがわかるとは、理解するとはどのような状態のことを指すのでしょうか。養老先生は子供の頃から「考えること」について意識的で、一つのことについてずっと考える癖があったことで、次第に物事を考え理解する力を身につけてきたそうです。養老先生が自然や解剖の世界に触れ学んだこと、ものの見方や考え方について、脳と心の関係、意識の捉え方について解説した一冊。</p>

☆ 児童図書・絵本は、別途掲示しています。

なお、12月新着本貸出日(12月9日)から貸出いたします。